



2014年2月28日発行



今回の紙面から (ページと内容)

1. 会長挨拶
2. 第7回国際春季フォーラム案内
第32回大会案内
(Student) Workshopの企画募集
理事会・評議員会より
3. 編集委員会より
4. 大会運営委員会より
6. 広報委員会より
学会賞委員会より
日本英語学会2013年度収支中間報告書
7. 日本英語学会賞と日本英語学会新人賞の募集
事務局より

会長挨拶

会長 大庭 幸男

新しい年を迎え、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、日本英語学会の主な活動として、学会誌 *English Linguistics (EL)* と学会発表論文集 *JELS* の発行、学会開催、学会活動を公開する広報活動、そして顕彰制度の整備と実施等があります。学会誌 *EL* については、とりわけ今年度の *EL* 第30巻はさまざまな要因が重なり 800 頁に及ぶ大部なものになっています。また、*JELS* (2013) は昨年の国際春季フォーラムと年次大会の発表内容が掲載され、本ニューズレターとともに送付されています。

学会開催については、昨年4月と11月にそれぞれ国際春季フォーラムと年次大会が開催されました。国際春季フォーラムは東京大学で開催され、開催校委員の今西典子先生、渡辺明先生、そして開催協力校委員の先生方と大会運営委員の皆様のお力添えにより、約170名(懇親会では約70名)の参加者を得て、盛会裡に終えることができました。また、年次大会は福岡大学で開催され、山田英二先生をはじめとする開催校委員の先生方と大

会運営委員の皆様のご尽力により、約420名(懇親会では約180名)の参加者を得て、こちらも盛会裡に終えることができました。この2つの学会開催にご協力いただきました関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

広報活動については、現在、日本語版と英語版のホームページの整備が行われています。また、*EL* は第1巻から第26巻第2号(2009)まで Web 上で公開が行われています。今年度より発行後2年を経た *EL* を随時 Web 上で公開する予定です。

そして、顕彰関係については、今年度、学会賞(著書)として2件、新人賞として1件の受賞がありました。これまで学会賞と新人賞には該当者がいない時期もありましたが、今年度はこのように3名の受賞者がありました。今後も一定数の受賞者がでることによって、学会がより一層活性化することを期待しています。

ところで、昨年のニューズレター No.59 において、創立30周年を迎えた日本英語学会の活動を「拡充化・充実化」「国際化」「電子化」「顕彰制度の充実化」を中心に振り返ってみました。どの項目においても充実化が図られておりますが、「見直すところは見直し、また、不足しているところは補足し、学会をさらに発展・充実させることが必要である」と書きました。

その一環として、また、近年みられる会員数の減少傾向をくい止める策を講じるために、昨年の年次大会においてアンケートを実施しました。アンケートにご回答いただきました皆様には、心より御礼申し上げます。アンケートの回答数はそれほど多くはありませんでしたが、*EL*、*JELS* や学会開催に関することなどについて貴重なご意見を頂戴いたしましたので、今後、関連する委員会で検討していただく予定にしています。

アンケートの回答の中に、学会の活性化と会員数の増加につながる意見として、顕彰制度に関するものがありました。それは、日本言語学会のように、優秀な研究発表に賞を与えてはどうか、というものです。顕彰制度として、現在、新人賞、学会賞(著書)、学会賞(論文)が設置(2010年)されていますが、これらは優秀な論文・著書を顕彰するもので、研究発表を対象にしたもので

はありません。確かに「学会発表賞（仮称）」を設置し、優秀な研究発表を顕彰すれば、若い研究者による研究発表の増加、ひいては会員数の増加につながり、活気のある学会になるのではないかと考えています。今後、理事会や大会運営委員会等において、これについて検討していきたいと思っています。

また、先のニューズレターNo.59では、科学研究費の基盤研究（A）と（B）の申請件数を増やすことの重要性について述べました。今年度の申請件数はまだ分かりませんが、昨年度より増加していることを期待しています。会員の皆様におかれましては、来年度の大型科研費に積極的に申請していただきますようお願い申し上げます。

新しい事務局体制になり、ようやく1年がたとうとしています。学会の発展と円滑な運営のため、事務局員一同、一所懸命務める所存です。今後ともご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第7回国際春季フォーラムのご案内

第7回国際春季フォーラムは次のとおり開催されます。

日時： 2014年4月19日（土）・20日（日）
場所： 同志社大学今出川キャンパス
（〒602-8580 京都市上京区今出川通
烏丸東入玄武町 601 番地）

詳細については、同封のプログラムをご覧ください。なお、今回のフォーラムより書籍展示を行います。また、土曜日夕刻に開催される懇親会の参加費は2,000円に改定となります。

第32回大会のご案内

第32回大会は次のとおり開催される予定です。

日時： 2014年11月8日（土）・9日（日）
場所： 学習院大学（〒171-0031 東京都豊島区
目白 1-5-1）

会員の方は奮って研究発表にご応募下さい。応募締切は4月1日（火）24時（必着）です。応募の際は、学会ホームページ「研究発表応募規定」欄（<http://elsj.kaitakusha.co.jp/kenkyuha.html>）掲載の同規定をご確認ください。2013年12月より応募規定が一部改定されておりますので、ご留意のうえ、各事項を遵守下さいませようお願いいたします。

ます。そのうえで、同規定指定のアドレス宛に、発表内容と研究発表応募用紙（Excel ファイル）を締切り日厳守にてご送信ください。

第32回大会においても「親と子の部屋」を設置いたします。詳細は、今後学会ホームページや8月発行予定のニューズレターでご案内いたします。

(Student) Workshop の企画募集

日本英語学会では、会員の自主的な企画・運営により、特定のテーマに関する発表と自由な討論をしていただく場として、ワークショップ/スチューデント・ワークショップ企画を例年募集しています。第32回大会では、11月8日（土）の午前9時30分から11時45分までをワークショップ/スチューデント・ワークショップにあてる予定です。

企画・運営をご希望の方は、学会ホームページ「秋季大会ワークショップ」欄（http://elsj.kaitakusha.co.jp/elsj_workshop.html）掲載のワークショップ企画募集案内をご確認のうえ、3月31日（月）24時までに必着にて、同案内指定のアドレス宛に企画書とワークショップ応募用紙（Excel ファイル）を送信ください。

理事会・評議員会より

○ 会計

2013年11月8日に開催されました第67回理事会と第31回評議員会において、日本英語学会2013年度収支中間報告が承認されました。「日本英語学会2013年度収支中間報告書」は、6-7ページに掲載されておりますので、ご覧ください。

○ 役員の異動（含、選挙結果報告）

・顧問（新任）

中島平三氏（学習院大学）が、2014年4月1日付けで顧問に就任されることに決定しました。

・理事（退任）

2014年3月31日で任期満了となる以下の7名の理事が退任されます。

池内正幸氏（津田塾大学）、大津由紀雄氏（明海大学）、澤田治美氏（関西外国語大学）、外池滋生氏（青山学院大学）、長谷川信子氏（神田外語大学）、廣瀬幸生氏（筑波大学）、山梨正明氏（関西外国語大学）

・理事（新任）

郵送による理事選挙が行われ、10月13日に選挙管理委員（有村兼彬氏、杉本孝司氏）による開票のもと、新理事が選出されました。

家入葉子氏（京都大学）、伊藤たかね氏（東京大学）、内田聖二氏（奈良大学）、大室剛志氏（名古屋大学）、岡田伸夫氏（関西外国語大学）、松本曜氏（神戸大学）、米山三明氏（成蹊大学）

2014年4月1日から2年間の任期（再任有り）で理事をおつとめ戴くこととなります。

なお、今西典子氏（東京大学）、大庭幸男氏（関西外国語大学）、金子義明氏（東北大学）、高見健一氏（学習院大学）は、理事2期目となります。

・編集委員会委員長（退任）

伊藤たかね氏（東京大学）が2013年11月30日付で退任されました。

・編集委員会委員長（新任）

加賀信広氏（筑波大学）が2013年9月1日付で編集委員長に就任されました。任期は2015年11月30日までです。

・大会運営委員長（退任）

大名力氏（名古屋大学）が2013年12月14日付けで退任されました。

・大会運営委員長（新任）

丸田忠雄氏（東京理科大学）が2013年12月15日付けで大会運営委員長に就任されました。任期は1年間です。

○ 会員数の変動について

11月8日開催の第67回理事会において、3年以上会費未納者の退会処理をご承認戴きましたが、少なくとも過去7年以上にわたりこの手続きが行われていないという経緯があり、累積退会者は今回138名となり、現在の会員数は1414名（1月28日現在）となりました。内訳は、学生会員60名、一般会員1227名、維持会員108名、賛助会員19名となっております。

○ ELSOK との交流について

2014年4月26日（土）にソウル市の韓国外国語大学校（Hankuk University of Foreign Studies）で開催されます韓国英語学会（ELSOK）主催の2014 Annual Spring Conference of ELSOKで、日本英語学会から2名の招聘発表（北原久嗣氏（慶應義塾大学）、西岡宣明氏（九州大学））が行われる予定です。また、第7回国際春季フォーラムにはELSOKから

Kee-Ho Kim氏（Korea University）とJang-song Lee氏（Korea Military Academy）をお招きいたします。同封のプログラムをご覧ください。

編集委員会より

◇ 第16期編集委員会（EL 第31巻・32巻編集担当）の運営について

第16期編集委員会は、2013年8月に第15期編集委員会副委員長を務めた加賀信広氏（筑波大学）を2013年9月1日から2015年11月30日の任期で第16期編集委員会委員長に選出しました。任期開始日の2013年9月1日から第15期編集委員長が退任する11月30日までの期間を第15期と第16期の編集委員長の引継ぎ移行期間とし、両委員長が協力してELの編集にあたりました。

2013年11月8日に開催した第71回編集委員会で、菊地朗氏（東北大学）を2013年12月1日から2015年8月31日の任期で第16期編集委員会副委員長に選出しました。

◇ English Linguistics 第30巻2号（2013年秋号）の刊行について

EL 第30巻2号（秋号）が刊行されました。Invited Article 3編、Article 1編、Brief Article 3編、Notes and Discussion 1編、Articles on a Specified Topic 5編、Review 6編が掲載されています。

◇ English Linguistics 第31巻1号（2014年春号）の応募論文の査読結果について

2013年9月20日締切でEL第31巻1号に投稿された一般論文の総数は15編で、その投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 10編（Syntax 4, Syntax/Morphology 1, Semantics 2, Cognitive Linguistics 2, Historical Linguistics 1）、Brief Article 2編（Syntax 2）、N&D 3編（Syntax 1, Semantics 2）でした。

以下の表は、慇懃によるReview 11編およびReview Article 3編と30巻2号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定され、31巻1号に再投稿された論文2編も含めた、31巻1号の審査結果です。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	10	2	6	0	2
BA	2	2	0	0	0
N&D	3	2	1	0	0
RA	3	3	0	0	0

Review	11	10	0	1	0
4ヶ月書き直し					
AR	2	1	1	0	0
合計	31	20	8	1	2

なお、EL 第31巻1号には、特別企画招聘論文1編も掲載予定です。

◇ English Linguistics 第31巻2号 (2014年秋号) への投稿について

2014年12月発行予定のEL第31巻2号(秋号)の原稿締切は、2014年4月1日(火) 24時(必着)です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定及び書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成して英語母語話者によるチェックを受けた原稿をご投稿下さいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「特別企画2013：特集テーマによる一括投稿論文」の事前審査への応募について

「特別企画2013：特集テーマによる一括投稿論文」の公募は2013年12月16日に締め切られ、事前審査に対して1件の応募があり、現在審査中です。なお、「特別企画2014：特集テーマによる一括投稿論文」の公募については、2014年6月に、学会ホームページで案内を行う予定です。

◇ 2013年度 EL研究奨励賞について

EL第27巻より、English Linguisticsに掲載された論文(ARとBA)で優れたものに「English Linguistics研究奨励賞」を授与することが決定されましたが、2013年度は、2012年9月20日締切のEL第30巻1号(2013年6月刊行済み)と2013年4月1日締切のEL第30巻2号に投稿され、すでに採用となったAR 5編、BA 5編合わせて10編について、先ず、分野別1次審査を行いました。審査対象となった論文の分野は、Syntax 6編、Syntax/Semantics 1編、Historical Linguistics/Syntax 1編、Morphology 1編、Cognitive Linguistics 1編です。1次審査結果を踏まえ、EL研究奨励賞候補論文を5編に絞り込み、現在「最終選考委員会」で、最終選考中です。最終選考で決定された2013年度「EL研究奨励賞」は、2014年3月中に受賞者にお知らせします。受賞論文の執筆者は、EL投稿時の年齢(あるいは研究歴)に即して、2014年度の日本英語学会賞(論文)と日本英語学会新人賞への応募の有資格者となります。

大会運営委員会より

□ 大会運営委員会の構成

昨年12月より大会運営委員会の構成は次のようになりました。

(委員長) 丸田忠雄氏

(副委員長) 高橋英光氏

(委員) 本多啓氏(国際春季フォーラム実行委員長)、土橋善仁氏、松本マズミ氏、村田和代氏、金澤俊吾氏(国際春季フォーラム副実行委員長)、小野創氏、花崎美紀氏、柳朋宏氏[以上留任]、小川芳樹氏、小畑美貴氏、澤田治氏、森田順也氏、山本武史氏[以上新任]

□ 第32回大会シンポジウム企画について

現在準備が進行中です。詳しい内容は『え〜ごがく』61号でお知らせいたします。

□ JELS 31 について

JELS 31はCD-ROM化して今回のNLに同封しております。

□ 第31回大会の報告

第31回大会は、2013年11月9日(土)・10日(日)の両日、福岡大学にて開催されました。本大会では、公開シンポジウム1件、シンポジウム4件、研究発表44件、ワークショップ5件、スチューデント・ワークショップ1件が行われました。大会2日間で420名の参加者があり、盛会裡に終わることができました。今回も各出版社から書籍の展示をしていただき、本大会では21社の展示がありました。大会運営を支えて下さった開催校の先生方、大会運営委員の先生方、参加された会員諸氏のご協力に対して、心より御礼申し上げます。また、今回も大会運営に関する貴重なご意見を多数いただきました。誠にありがとうございました。今後の大会運営の参考にさせていただきます。

□ 研究発表応募規定の改定について

11月の秋季本大会、および4月の国際春季フォーラムの研究発表応募規定が次のように改定されました。

(和文)

【旧】

7. 応募者は6とは別に、研究発表応募用紙(日本英語学会ホームページ <http://elsj.kaitakusha.co.jp/>)

kenkyuha.html からダウンロード) に、論文題名・氏名(ふりがな)・会員種別(通常・学生・維持)・所属・連絡先住所・電話番号・e-mail アドレス・審査希望分野(以下参照)を明記する。プレゼンテーション用機器の使用は、発表の性格上必然性のある場合に限る。その場合、使用する機器とその使用理由を明記する。

【新】

7. 応募者は6とは別に、研究発表応募用紙(日本英語学会ホームページ <http://elsj.kaitakusha.co.jp/kenkyuha.html> からダウンロード) に、論文題名・氏名(ふりがな)・会員種別(通常・学生・維持)・所属・連絡先住所・電話番号・e-mail アドレス・審査希望分野(以下参照)を明記する。プレゼンテーション用機器を使用する場合は、使用する機器を明記する。

(英文)

【旧】

7. Applicants must also submit an application form for the presentation (downloadable from the website of the English Linguistic Society of Japan: <http://elsj.kaitakusha.co.jp/kenkyuha.html>), which must contain the title of the paper, their name, class of membership (regular, student, or sustaining), institutional affiliation, mailing address, e-mail address, and telephone number. AV equipment may be used only if it is required by the nature of the presentation, in which case information about the kinds of AV equipment to be used and a statement of the reason for its use should also be provided.

【新】

7. Applicants must also submit an application form for the presentation (downloadable from the website of the English Linguistic Society of Japan: <http://elsj.kaitakusha.co.jp/kenkyuha.html>), which must contain the title of the paper, their name, class of membership (regular, student, or sustaining), institutional affiliation, mailing address, e-mail address, and telephone number. Applicants considering use of AV equipment for their presentation are required to provide information about the kinds of equipment.

□ 「大会資料」および *Conference Handbook* の原稿作成上の注意の変更について

上記2つの原稿作成上の注意が次のように変更

されました。

「大会資料」原稿作成上の注意

【旧】

(3) その他

- ① 発表題名は原則として応募時のものを使用する。
- ② 副題がある場合、スペースがなければ省略してもよい。
- ③ 大会資料プログラムに掲載された発表題名が最終的な題名となる。大小に関わらず、大会資料プログラムに掲載されたタイトルの変更は認められない。

【新】

(3) その他

- ① 発表題名は原則として応募時のものを使用する。
- ② 副題がある場合、スペースがなければ省略してもよい。— (削除)
- ② 大会資料プログラムに掲載された発表題名が最終的な題名となる。大小に関わらず、大会資料プログラムに掲載されたタイトルの変更は認められない。

Conference Handbook 原稿作成上の注意

【旧】

(3) 書式:

- ③ 日本語で発表を行う場合は、発表題名、氏名、所属は日本語で表記し、発表題名には英語の題名を、氏名、所属には英語(または原語)の表記を()内に併記する。
- ④ 英語で発表を行う場合には、発表題名は英語で、氏名、所属は英語(または原語)で表記する。

【新】

(3) 書式:

- ③ 日本語で発表を行う場合(大会資料に日本語表記の発表タイトルを出している場合)は、発表題名、氏名、所属は日本語で表記し、発表題名には英語の題名を、氏名、所属には英語(または原語)の表記を()内に併記する。
- ④ 英語で発表を行う場合(大会資料に英語表記の発表タイトルを出している場合)は、発表題名は英語で、氏名、所属は英語(または原語)で表記する。

□ ワークショップ発表タイトルにおける「(E)」表記の廃止について

英語による発表の場合にタイトル横に付す(E)

表記はすでに廃止されていますが、ワークショップでの発表についてもこれに準じ、英語での発表は英語タイトルでの表記、日本語での発表は日本語タイトルでの表記をお使いいただきますようお願いいたします。(詳しくは学会 HP 上の「第 32 回大会ワークショップ企画募集」をご覧ください。)

広報委員会より

◇ English Linguistics のバックナンバーのアーカイブ化について

広報委員会では、今年度 J-STAGE 3 (科学技術情報発信・流通総合システム) での EL アーカイブ化及び公開作業に取り組み、第 26 巻第 1 号 (2009) の初回公開 (7 月 1 日) 後、本運用に入りました。現在、同巻第 2 号 (2009) まで公開されており、発行後 2 年を経た巻号について以後順次作業を進めていく予定です。以下の URL をご参照下さい。 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

学会賞委員会より

○ 2013 年度学会賞選考結果報告

日本英語学会賞は、学会賞 (著書)、学会賞 (論文)、新人賞の 3 部門で応募・審査を行っています。今年度の選考は、2013 年度学会賞委員会 (高見健一 (委員長)、池内正幸 (副委員長)、伊藤たかね (第 15 期編集委員会委員長)、加賀信広 (第 15 期編集委員会副委員長)) と英語学会事務局 (西岡宣明 (前事務局長)、岡田禎之 (現事務局長)) の運営責任のもと実施されました。2013 年 4 月 1 日から 5 月 31 日の応募期間内に、学会賞 (著書) には 4 件、新人賞には、2012 年度 EL 研究奨励賞受賞論文 1 件が応募されました。

学会賞 (著書) は、6 月中旬から 10 月中旬まで審査が行われ、新人賞応募論文は、6 月初旬から 8 月末まで審査が行われました。その結果、2013 年度学会賞 (著書) は、高橋英光氏 (北海道大学) の *A Cognitive Linguistic Analysis of the English Imperative: With Special Reference to Japanese Imperatives* (John Benjamins) と河野継代氏 (東京学芸大学) の『英語の関係節』(開拓社) に、2013 年度新人賞は、北田伸一氏 (東京理科大学) の “A Theory of Linearization and Its Implication for Boundedness of Movement” (EL 29.2) に授与する

ことになりました。選考結果は 2013 年 11 月 9 日 (土) に開催された日本英語学会第 31 回大会の総会において報告され、そこで授賞式が行われました。なお、選考委員を務めていただいた方々の氏名は EL 第 31 巻 1 号に掲載される学会賞委員会報告に記載され公表されます。

受賞作の概要と評価は以下の通りです。

A Cognitive Linguistic Analysis of the English Imperative

本書は、英語の命令文を認知言語学の観点から考察した包括的で優れた研究である。命令文が典型的なものから非典型的なものへと階層的に区別されることを明確にし、それらを数値化して、この数値が下がれば下がるほど、典型的な命令文から少しずつ逸脱した非典型的な命令文が生じることを明らかにしている。

『英語の関係節』

本書は、英語の関係節の多様で複雑な統語的・意味的現象を生成文法の観点から独自の分析で説明し、先行研究に比べてより本質的で原理的な説明を与えた研究である。また、著者が長年にわたって収集した膨大なデータをもとに構築した理論が提示され、実証的にも優れている。

“A Theory of Linearization and Its Implication for Boundedness of Movement”

本論文は、生成文法のミニマリストの枠組みで語順の問題を扱っており、日英語の語順の違いに対する説明だけでなく、副詞的要素が占める位置とその解釈、外置構文の可能性など、様々な現象を独創的な提案で解決しており、スケールの大きな論文である。

日本英語学会 2013 年度収支中間報告書

2013 年度中間収支報告については、紙媒体の「え〜ごがく」 No. 60 をご覧ください。

応募期間は以下のとおりです。

・**応募方法**：必要な書類を日本英語学会ホームページよりダウンロードし、必要事項を記入のうえ下記の指定メールアドレスに送信してください。

日本英語学会賞（著書）：award-b-obo@kaitakusha.co.jp
日本英語学会賞（論文）および日本英語学会新人賞：
award-a-obo@kaitakusha.co.jp

・**応募期間**：2014年4月1日より5月31日まで

・**その他**：日本英語学会のホームページにあります応募規定を熟読のうえご応募ください。不明の点は事務局あて（elsj-info@kaitakusha.co.jp）eメールにてご連絡ください。

事務局より

○ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会員規定第3条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意ください。

○ 学生会員登録（継続会員）について

2014年度に学生会員として登録（2013年度からの継続）を希望される方は、以下の要領でお申し出ください。申告期間の終了後に2014年度の会員種別を確定し、会費請求をいたします。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますので、ご注意ください。

・申告資格：次の①もしくは②の条件を満たす会員
①大学など学校の「学生」の資格をもつ会員。
②研究生・聴講生・専任の勤務を持たない大学院修了者、および外国の大学の日本校の学生。

・申告期間：2014年4月1日より4月25日（必着）

・申告方法：会員番号・氏名・4月以降に在籍する学校の名称を記した用紙に、4月以降に学生であることを証明する以下の(1)から(4)のいずれかの書類を添付し、事務局宛（宛先は奥付参照）「学生会員登録希望」と必ず朱書きのうえ、郵送してください。

- (1) 在学する学校の発行する在学証明書
- (2) 学生証のコピー
- (3) 進学する学校・課程の合格通知書のコピー
- (4) (元)指導教員（所属明記）の署名（捺印）と証明の言葉
専任の勤務先を持たない大学院修了者は、(4)の

日本英語学会賞および日本英語学会 新人賞の募集

2014年度の日本英語学会賞（著書）、日本英語学会賞（論文）、日本英語学会新人賞の応募方法と

方法により書類を提出してください。申告されたのちに変更が生じた場合や不明な点がある場合には、事務局 (elsj-info@kaitakusha.co.jp) にご連絡ください。

○ 学生会員登録（新規入会）について

2013年度より、年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、上記の学生会員登録と同じ要領で申し込むことにより、申告期間にかかわらず、いつでも初年度から学生会員として登録ができることになりました。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意ください。詳しくは、学会のホームページをご確認下さい。

○ EL への論文投稿に関するお願い

ELに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。

編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文に、「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記ください。開拓社から送られる自動応答の着信確認用の受領メールに返信する形では連絡メールを送信しないでください。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスにご送信ください。

JELSや所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、関連する投稿者自身のこれまでの研究論文の情報は必ず記載してください。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、3人称表現をご使用ください。

○ EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、日本英語学会事務局あて (elsj-info@kaitakusha.co.jp) にお知らせください。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」にELに掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせください。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。

○ JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い

JELS掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局まで (elsj-info@kaitakusha.co.jp) お申し出ください。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。

○ EL公費購入のお願い

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをさせていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくようお願いいたします。

○ 電子版投稿・審査体制に関連するお願い

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々に電子メールで連絡いたします。電子版投稿・審査体制の下での学会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常1週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようお願いいたします。

○ 連絡先等変更のご連絡のお願い

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡ください。連絡方法については、学会ホームページをご覧ください。

○ 学会開催時のアンケートご協力へのお礼

11月に福岡大学で開催された年次大会におきまして、学会の活性化を図るために、アンケートを実施させていただきました。ご回答いただきました皆様に、御礼申し上げます。アンケートの内容

は、*EL, JELS*と大会開催と顕彰関係などが主でしたが、学会の活性化に係るご意見につきましては、今後、理事会や各種委員会で検討していただく予定です。

編集後記

昨年9月1日より、西岡前事務局長の後を引き継いで事務局の担当をさせて戴くこととなりました。福岡大学での11月の大会は、開催校の先生方のご尽力により、盛会のうちに終えることができました。また、*EL30*号は、冒頭の会長挨拶にもありますように2冊合わせて800ページに及ぶ、これまでにない大部の出版物となりました。いずれも学会活動を支えて下さる会員の皆様のご協力の賜です。有り難うございました。

事務局の仕事量は年々増加しており、この4月からは、学会賞委員会、広報委員会、言語系学会連合(2014年度のみ)担当の書記を新たに1名お願いすることになりました(第67回理事会承認済み)。4月からは以下のような事務局員構成となります。

田中裕幸氏(関西学院大学)・岩崎真哉氏(大阪国際大学)[編集委員会・理事会担当]

吉本真由美氏(実践女子大学(4月から))[財務・国際春季フォーラム担当]

南佑亮氏(神戸女子大学)[大会運営委員会・評議員会担当]

森英樹氏(福井県立大学)[学会賞委員会・広報委員会・言語系学会連合(2014年度のみ)担当]

会員の皆様、今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

(岡田禎之(大阪大学)[事務局長])

2014年2月28日発行

編集・発行 日本英語学会

代表者 大庭 幸男

発行所 日本英語学会

<http://elsj.kaitakusha.co.jp/>

〒113-0023

東京都文京区向丘 1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900
